

原著 (Article)

# 教科の枠を超えた事象における音楽活動の 音楽学習への機能

——音楽科の〔共通事項〕の学習内容を中心としたカリキュラム構想から——

**The Functions of Musical Activity in Integrated Learning to  
Music Learning: From the Curriculum Concept comprising  
the learning content of “Common Items” for School Music  
Education**

山中 文\*  
YAMANAKA, Aya\*  
渡邊 康\*  
WATANABE, Koh\*

## 摘 要

音楽科の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」を中心とするカリキュラムを検討する一環として、題材構成の趣旨を検討し、音楽と人間との関わりという観点から、音楽科の枠を超えた事象を取り上げた授業が音楽の学習にどのように機能するか検討した。

キーワード：〔共通事項〕、題材構成、合科、学校音楽教育

**Key words:** “Common Items”, subject composition, Integrated Learning, school music education

## はじめに

学習指導要領音楽科では、〔共通事項〕が以下のように示されている<sup>1)</sup>。

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考えること。
- イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

山中は、別稿で、この〔共通事項〕の内容の課題を3点あげた(山中 2019)。

- 1 〔共通事項〕の説明の混乱
- 2 〔共通事項〕に示された資質・能力における概念的な知識の排除
- 3 題材観の不在

本稿では、これらの課題を克服し、〔共通事項〕に示された「音楽を形づくってい

る要素」を中心とするカリキュラムを検討する一環として、特に3の題材観の不在に着目した。今一度1980年に文部省から示された題材構成の趣旨（文部省 1980）に立ち返りながら題材構成の在り方を確認し、題材構成の弾力的な運用となる音楽科の枠を超えた事象を扱った授業を取り上げ、音楽の学習にどのように機能するのかを検討する。

## 1. 題材構成について

題材構成については、文部省により1980年に『小学校音楽指導資料 指導計画の作成と学習指導』（文部省 1980）において詳細な説明が行われており、それ以降、説明に修正が行われた形跡はない。つまり、この時点で発表された題材観は、現在も通用している題材観である。

示されている題材構成は3種類である。まず、「主題による題材」としてあげられている「音楽的なまとまり」「生活経験的なまとまり」であり、もうひとつが「楽曲による題材」である。

このうち、「楽曲による題材」は、音楽教育現場で従来から一般的に行われている楽曲中心の授業が想定されている。そのため、「題材」とはなっているものの、主題の設定よりもまず教えるべき教材が優先される。このことから、文部省は「楽曲による題材」については、年間を通したカリキュラム構成とは矛盾が起きることが課題であるとしている（文部省 1980, 16）。

つまり、カリキュラム上中心的な題材構成は、「主題による題材」ということになる。「主題による題材」の「音楽的なまとまり」と「生活経験的なまとまり」については、以下のように示されている（文部省 1980, 16）。

「音楽的なまとまり」ということは、主として音楽の要素的なものを対象とするが、単に音楽を分析的に学習するという冷ややかなものではなく、各学年の児童の実態とのかかわりを重視していくことはもちろんである。「生活経験的なまとまり」という点については、季節、行事等を中心とし、生活との関わりを取り入れて計画するもので、「音楽的なまとまり」と共に、音楽の学習としては見落とすことのできない分野である。

この両者の教材性を精選して主題を設定し、適切な教材（楽曲）を配して題材を構成するというのが、主題による題材の基本的な形態である。

「主題による題材構成」による授業においては、主題に応じて複数の教材を選択して構成していくことが前提であるとともに、児童の実態から弾力的な授業構成をとることが求められているということであろう。

そのためにはどのような授業構成が考えられるであろうか。

かつて、山中は、音楽科の教育内容を授業構成においてとらえていく上で以下の4点が必要であることを述べた（山中 2017, 238-239）。

- ①音楽科の教育内容とする基礎的な音楽構成要素を中心に、一部に様式や音楽の機能等を含みながら概念化や操作化をはかった授業構成を、段階的に配置する。
- ②技能的な学習の授業構成を独立させて存在させる。
- ③表現を主体とする授業構成について再考する。
- ④授業過程における内在的な要因を重視する授業構成について検討する。

「音楽的なまとまり」の題材構成の授業においては、ひとつにこの①のような視点が必要である。音楽の諸要素<sup>2)</sup>によってつくり重ねられていく音楽には、ある共通の特徴が得られ、様式が生まれることがある。様式はその地域の文化や社会と関わり、音楽の機能や民族音楽とつながる。音楽を学習するとは、このような音楽と人間の関わりを含みこんだものであるべきであろう。そうすると、音楽の諸要素を知覚したり、使用したりという学習に加えて、人間が音楽の諸要素をどのように使って表現してきたか、それはどのような文化の中に存在したか等にまで立ち入って学習するような授業構成が必要になってくる。

このようにとらえると、「音楽的なまとまり」の題材構成の授業は、音楽科の枠を超えた事象まで広げた内容を取り上げることも考えられる。八木正一（1999, 59）は、そのように枠を超えた事象まで広げることを、「教育内容の抽象度を高める」と述べ、その観点から、「日本人ってノンビリ屋さん？」「ヘンデルのカツラのひみつ」といった授業を提案している。

また、「生活経験的なまとまり」については、文部省が題材構成例として示しているものでは「海・山の歌を歌おう」や「卒業式の音楽を演奏しよう」がそれに当たると考えられる<sup>3)</sup>。この題材名からも想定されるように、「生活経験的なまとまり」による題材構成は、もともと他教科の学習内容や季節・生活・行事等と関連が深い。上の2例は、いくつかの歌を歌うだけであったり、儀式で決まった楽曲の練習をするにとどまったりする可能性もあるが、たとえば、「敬老の日の音楽会を企画しよう」などという題材ではどうであろうか。「お年寄りが若い頃よく流行っていたのはどんな歌やリズムだったのだろうか」「それはどんな時代だったのだろうか」「どのように演目を組み合わせたら楽しんでもらえるだろうか」と、子どもたちが演奏する楽曲にまつわるさまざまな背景や時代に思いを寄せ、工夫をすることが考えられる。

## 2. 音楽科の枠を超えた題材の実際

山中らは、そのような音楽科の枠を超えた事象を取り扱った題材の授業構成として、以下のような授業構成を提案してきた。

ひとつは、授業プラン「要注意歌謡曲」（八木・山中・三国 1986）という大学生対象の授業プランである。また、小学生用の授業プランとしては、音・食・環境による

合同授業開発として3つの授業を組み合わせたものを提案した（山中・岡谷他 2013）。

### (1) 授業プラン「要注意歌謡曲」

「要注意歌謡曲」とは、「日本民間放送連盟放送基準」の中で「放送音楽などの取扱い内規」（以下、「取扱い内規」と略す）に示されたいくつかの審査基準から、それに該当するものとして、「放送しない」「旋律は使用してもよい」「不適当な箇所を削除または改訂すればよい」といった取扱いが行われた楽曲である。審査基準には、人種・民族・国民・国家の誇りを傷つけたり、国際親善関係に悪影響を及ぼしたりする恐れがあるもの、個人・団体・職業などをそしる・軽蔑する・名誉を傷つける表現をしているもの、男女の性的特徴を扱い、品位にかけるもの、頹廢的・虚無的・厭世的あるいは自暴自棄的で、著しく暗い印象を与えるものなど、10基準があった<sup>4)</sup>。

授業プランでは、まず、「要注意歌謡曲」として指定され、放送禁止となっていた、「金太の大冒険」<sup>5)</sup>と「リムジン江」<sup>6)</sup>を鑑賞し、受講者に放送禁止の処分をレコード会社に言い渡す役になったとして処分の理由を考えさせる。そして、「要注意歌謡曲」一覧や取扱い内規を確認する。次に、いくつかの曲を鑑賞したり歌詞を見たりして、どれが放送禁止になっているか考えさせる。さらに、「要注意歌謡曲」に指定されたことに対する公開質問状に対して、審査委員はどのように答えるか予想する等に展開する。最終的に音楽を規制したり検閲したりすること、委員会のあり方、このような問題に対する私達の行動について、レポートを書かせるというプランである。1986年当時の「要注意歌謡曲」の審査には、不可解な審査も多く、知らないままに規制が行われていることに対する自覚を問うプランとなっている。

この授業プランは、次の観点から作成されている（八木・山中・三国 1986, 68）。

主体形成という目的にてらせば、そうした（音楽の授業のなかで作品を力いっぱい子どもたちに体験させ、音楽的概念や技術を獲得させるといった一引用者注）音楽そのものの学習と同時に、音楽についての学習も重要な位置を占めるとわれわれは考えている（とりわけ、社会的コンテクストのなかで音楽のありようを考えていくことは重要であろう—ママ）。

取り扱う楽曲の関係から大学生対象として行っており、義務教育期間の授業プランとして取り上げていくには課題があるが、操作する能力だけでなく価値主体形成へむけての問題提起となる授業プランであった。

### (2) 音・食・環境による合同授業開発

これは、「五感に対する感覚を高め、音を認識する」（山中・岡谷他 2013）という観点から「食育系授業」「環境系授業」「音楽系授業」を行い、それら3つの授業の前後に子どもたちに「音日記」<sup>7)</sup>を1週間ずつ書かせる、というものである。2011年度

に小学校4年生に対して行った<sup>8)</sup>。

「食育系授業」では、餃子の皮でピザづくりを行う中で、たとえばピーマンを縦に切るか横に切るかで音の違いを聞いたり、ピザが焼けてくる時の音と匂いを記録していったりした。「環境系授業」では、虫の声をあてたり、袋の中に手を入れて触感で物をあてたり、というようなゲームを通して、聴覚・視覚から音を探った。さらに、「音楽系授業」では、「音で助ける」「音をつくる」「音を追う」「音をみつける」「音を並べる」という5つのミッションを子どもたちが行うというものであった。

これら3つの授業の前後で取り入れた「音日記」とは、毎日何か音を見つけ、それに対して思ったことや意見などを綴っていくものである。先の3つの授業の成果は、音日記の量的・質的变化から見た。授業前と授業後では記述数が増え、日記の内容には、たとえば次のような変化がみられた。

#### 授業前（「音日記」4日目）

今日の音は「ピンポーン、ピンポーン」という音です。それは、家のチャイムでした。今日は、何人も人が来て、6回ぐらい「ピンポーン、ピンポーン」となりました。その後、みんなで、遊びました。その後、ゆうやくんが来ていっしょに遊びました。楽しかったので、来週の土日遊びたいです。

#### 授業後（「音日記」13日目）

今日の音は、水どうの「ジョー」という音でした。なぜこんな音がしたかという、ズボンをお風呂で洗っている時に、音がでました。弱くひねると、「チョー」といい、強くひねると「ジャー」といいました。弱くもなく、かといって強くもなくひねると、「ジョー」といいました。とめると、まさに音楽の演奏みたいに、ピタッと音がやみました。

授業前が「ピンポーン」という呼び鈴のひとつの音に着目した記述であるのに対して、授業後は音の変化に着目して、自ら働きかけていることを記述している。授業後の「音日記」にはこのような観察や追究の様子が記述されるようになり、音を主体的に認識していくという点で実践の有効性が窺えるものとなった（山中・菊地他 2013）。

### 3. 「大陸間水プロジェクト」における音楽活動

2で取り上げた授業プランは、音楽科から他分野に広がる内容を扱うものであった。それらには一定の成果が見られるが、他教科や他領域と関わる学習においては、他分野の学習の必要性から音楽が含みこまれる場合がある。

「大陸間水プロジェクト」（宇土・林 2016）は、そのような他分野の学習に音楽が参画した形のものである。

### (1) 「大陸間水プロジェクト」の概要

これは、小学校6年生の総合的な学習の時間で、国際理解教育をテーマとして「世界の人々と自分の生き方」について学ぶ中で、「グローバルイシューである“水”をテーマに、ローカルな水問題から地球規模の水問題に至るまで、大陸を越えてアフリカ、ヨーロッパの子どもたちと直接交流しながら、かかわりあう場、学び合う場、響き合う場を結びつけた学習」を行おうというねらいで行われた（宇土・林 2016, 103）。名古屋市立蓬来小学校とブルキナファソの Le CREUSET Plus, フランスの Ecole de la VALLEE の3校がかかわり、各学校の子どもたちが自ら地域の水問題を調べ、その学びからメッセージを出し合って歌詞をつくり、合唱やダンスで表現しあうものとなっている（宇土・林 2016, 99）。

実践においては、まず蓬来小学校の6年生の大陸間の協働的な学びあいと並行して、子どもたちの間で「音楽部」と「国際交流推進委員会」が立ち上げられている。そして、宇土による TST 調査の手法（宇土・林 2016, 104）により、「国際交流推進委員会」の子どもたちそれぞれが「水」からイメージする言葉を20個あげ、その中から水をテーマにした歌詞に入れ込みたい言葉を拾いだした。そして、渡邊康がそれらをもとに以下のように歌詞を整え、作曲した（楽譜は、稿末楽譜1参照）。

#### 水はいのち I Love Water

水はいのち 世界をめぐる	水はいのち 世界をつなぐ
水はいのち 地球のたからもの	水はいのち 水となかよし
水はどこからくるのだろう	川と海をつなぐ いのちの水
きらきら輝く水	きらきらはじける水
ひとつぶの水が川と川をつなぎ	海と海をめぐり、地球をみたす
I Love Water	I Love Water

その後、完成した曲は「国際交流推進委員会」で歌の振り付けが考案され、学習成果が6年生により ESD 掲示用パネルを使って全校に紹介されたり、音楽集会で全校合唱したりするなどの取り組みが行われた。そして、その全校合唱の動画が Le CREUSET Plus, フランスの Ecole de la VALLEE へ送られ、後日同じメロディーでそれぞれの学校で作詞した歌詞で歌われている動画が送られてくるという活動が行われたのである。

ブルキナファソの Le CREUSET Plus, フランスの Ecole de la VALLEE から送られてきた歌詞は次頁のような歌詞である。

この実践は、その後、東海ブロック国際理解教育研究大会のシンポジウム<sup>9)</sup>において、紹介された。また、オープニングセレモニーでは、フランスとブルキナファソの子どもたちの歌が映像で、日本の子どもたちのそれは蓬来小学校音楽部と6年生有志によって直接に披露されている。

・ Le CREUSET Plus の歌詞

Le CREUSET Plus の歌

**【Burkina Faso】 Le CREUSET Plus**

Plus précieuse que le diamant ou l'or  
 Cette chose a valeur immesurable  
 Partageons la, protégeons la  
 Faisons attention à elle  
 N'oublions pas que l'eau, c'est la vie  
 L'eau, c'est la vie, la source de la vie  
 Moi j'aime l'eau, car j'aime la vie  
 Protégeons l'eau et ma vie que j'aime  
 Cette eau est bonne  
 Cette chose miraculeuses et mystérieuse  
 Cette pluie, l'eau de la vie  
 Cette tempête, L'eau vivante de cette nature  
 Un problème se pose à l'eau, Les puits séchés  
 En polluant les sources d'eau  
 On ne peut plus vivre  
 Préserver l'eau  
 Apprenons à bien protéger l'eau  
 L'eau, c'est la vie  
 I Love Water I Love Water

Le CREUSET Plus の日本語の歌詞

日本語訳

ダイヤモンドや金よりも貴重で  
 計り知れないほどの価値のあるもの  
 分かち合おう きれいに保とう  
 大切に気づこう  
 水は生命だということをわすれないように  
 水は命 命の源  
 私は水がすぎ 私の愛する命だから  
 水を守ろう 私の愛する命だから  
 この水はやさしい  
 奇蹟で神秘的なもの  
 この雨 命の水  
 この嵐 この自然で命ある水  
 水に問題が起こって井戸が干涸びたり  
 水源が汚染されたりすると  
 生きてゆけない  
 水を保護すること  
 水をきれいに保つことを学ぼう  
 水は命  
 I Love Water I Love Water

・ Ecole de la VALLEE の歌詞

Ecole de la VALLEE の歌詞

**【France】 Ecole de la VALLEE**

Dans l'univers, la planète bleue  
 Un grand fleuve, une petite rivière  
 Un grand océan, une petite mer  
 Les mères de toutes les vies, on a tous  
 besoin de toi  
 A Tokyo et à Paris, on a tous besoin de toi  
 L'eau nous invite dans le passé  
 Les dinosaures rugissaient sous les chutes d'eau  
 Maintenant, l'eau nous rend propre et  
 brillant  
 comme une sirène ou une baleine qui danse  
 L'eau nous apporte le bonheur  
 Eduque les branches et épanouit les fleurs  
 Protège le futur des enfants  
 Protège le sourire des enfants qui naissent  
 Tous les océans bleus de la terre  
 La perle rare qu'est l'eau potable  
 Puis-je faire quelque chose?  
 Pour protéger ce trésor  
 Avec toutes nos pensées  
 I Love Water I Love Water

Ecole de la VALLEE の日本語の歌詞

日本語訳

宇宙の中の青い地球  
 大きな川 小さな川  
 大きな海 小さな海  
 すべての命の母  
 みんなあなたが必要  
 東京でもパリでも みんなあなたが必要  
 水は過去へ私たちを誘う  
 恐竜たちは滝の下で鳴き声をあげていた  
 今 水は私たちを潤わせ  
 きれいにしてくれる  
 人魚や踊るクジラのように  
 水は幸せをくれる  
 枝を育て 花を咲かせ  
 子どもたちの未来を守る  
 生まれてくる子どもたちの微笑みも守る  
 地球のすべての青い海  
 貴重な真珠 飲める水  
 私は何ができるだろう  
 この宝物を守るために  
 すべての思いを込めて  
 I Love Water I Love Water

## (2) 「大陸間水プロジェクト」の中の音楽活動

稿末の楽譜からわかるように、この楽曲は、8分の6拍子で、緩やかに歌われる。日本の原曲では、冒頭の歌詞で‘水はいのち’と4回繰り返される部分が同じ旋律になっているため、覚えやすく歌いやすい。‘水はどこからくるのだろう’から旋律に動きがあり、‘きらきら輝く水’‘きらきらはじける水’をやや高音部で繰り返している。さらに、‘ひとつぶの水が川と川をつなぎ 海と海をめぐり地球をみたく’で旋律はもう一度盛り上がりを見せる。ここでも‘川と川をつなぎ’‘海と海をめぐり’の部分は同旋律となっている。そして、再び元の旋律に戻って、‘I Love Water’を高らかに歌って終わる。

日本の小学生にとって、まずこの歌は、自分たちがとりあげたことばが歌詞になって歌われることの驚きと嬉しさを実感するものであり、また流れるような旋律で繰り返しが多用されていることによって、いつでも口ずさめる愛唱歌になり得るものになっている。

また、2国の歌を聴いた際には同じ旋律であるのに、フランス語の語感、ブルキナファソのリズム感に溢れる振り付け等によって、イメージの違いを感じ、その国の音楽の「らしさ」を体感したはずである。

さらに、歌詞を見れば、「水」に対するイメージやとらえ方が3国の子どもたちで異なることがわかる。水が2国に比べふんだんにある日本の歌詞においては、水はあくまでゆったりと海に流れ込んで行くというイメージを感じさせる。フランスの子どもたちの歌詞も、過去からの宝物であるきれいな水を守る、という内容である。しかし、ブルキナファソの歌詞には、子どもたちの中にすでに、水環境の厳しさから「井戸が枯れる」「汚染される」といった危機意識があることがわかる。これらは、同じ旋律に付けられる歌詞であるだけに、そのまま他国の説明を聞くよりも、子どもたちは注目していくことになる。

つまり、このプロジェクトでは、子どもたちは、自分たちの言葉が歌になる、歌によって文化の違いを体感する、歌によって他国の現状を知る、という学習をしているということが言えよう<sup>10)</sup>。他教科において音楽が参画する授業では、音楽は利用されることはあっても、他教科と相互に影響しあうものは少ないが、この実践は音楽が関わったからこそ、音楽を通して、自国の水について考え、他国の文化を理解しながら、その現状を知るという学習になっている。まさに、先に述べたような「音楽と人間の関わりを含みこんだ」学習であるといえよう。

## おわりに

千成はかつてこう述べた（千成編 1982）。

ハンガリーに何日か滞在し、教室の窓から流れてくる子どもたちの歌声を聞

いたり、また農民たちが歌うのを聞いているうちに、その歌の輪郭に一つの特徴を感じることができる。そしてさらに長期間滞在を延ばした後では、誰もが彼等に合わせてそれらの歌を歌うことができるようになるだろう。ハンガリーの民謡を規定しているのは周知のように、主としてペンタトニックである。われわれはそれを学習し、ハンガリーの数多くの民謡を歌えるようになった結果、われわれの心情をよりよくその国の人たちに理解してもらうことができると考える。

こういった状況はもちろん立場を逆にして成立しうるし、またあらゆる国や民族・部族間にも生じうるであろう。このことは音楽を通しての国際的相互理解へと発展する。

「大陸間水プロジェクト」で子どもたちが学習し得たことは、これに類するものであるだろう。一つの旋律にそれぞれが学習した歌詞を入れた歌があることで、その国に対して共感を持ち、その現状を学び取ろうとする意欲につながったといえる。また、それは、その国の音楽に対する理解にもつながるのである。

もっとも、このような総合的な取り組みに音楽が必ずしもうまく関連していきけるとは限らない。たとえば、この「大陸間水プロジェクト」の活動は、さらに、水・気候変動問題を共通のテーマとして調査研究し発表し合うという「地球子ども広場」プロジェクトに発展しており、2019年3月には、Global Kids Square 2019 in Parisとして、パリで発表を行っている<sup>11)</sup>。その時も、新たに作曲された‘WE LOVE THE EARTH’が歌われた。しかし、この時は、まだ日本語の歌詞しかできておらず、3国が集まって歌ったが、ブルキナファソとフランスの子どもたちは、日本語をローマ字に置き換えて歌うにとどまった。歌を共に歌い、音楽的時間を共有するという一体感は得られても、この時点ではまだ国際的相互理解へとつながるまでには至っていない。このプロジェクトは継続中であるので、今後の活躍に期待したい。

筆者らは、〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」を中心とするカリキュラムを推奨する立場にあるが、それは無味乾燥な知識を注入しようとするものではない。先にも述べたように、さまざまな音楽活動から、「音楽を形づくっている要素」を主体的に獲得していく過程としてカリキュラムを見通す<sup>12)</sup>時、音楽と人間との関わりを含みこんだ題材構成は重要である。カリキュラム構想においては、本稿で述べた題材構成の幅、つまり、八木のいう「教育内容の抽象度」の視点を取り入れていきたい。

## 付 記

「大陸間水プロジェクト」や「地球子ども広場」プロジェクトは、宇土泰寛教授らによる実践である。これらのプロジェクトは、宇土教授の「学習者に、学級社会をリア

ルに社会的想像空間として、子どもたちに提示し、子どもたちは、そのコミュニティへの主体的な参加者として学び合い、行動する」(宇土 2020, 55)という方針にもとづいて行われている。そのような方針が、音楽活動をも、いわゆる「添え物」ではなく、プロジェクト内で役割を果たす存在とさせていると考えられる。宇土教授に多くのご示唆をいただいたことに、深く感謝いたします。

なお、本研究は、JSPS 科研費 JP16K04698 の助成を受けたものである。

楽譜 1

# I Love Water

k watarabe

1  
み ず は い の ち せ か い を め ぐ

2  
み ず は い の ち せ か い を め ぐ

6  
る み ず は い の ち せ か い を つ な ぐ

11  
み ず は い の ち ち き ゅ う の た か ら も の み ず は い

16  
の ち み ず と な か よ し

21  
みずはどこからくるの だろう かわとうみをつなぐ

27  
いのちのみず きらきら かがやく みず

31  
きらきら はじける みず ひとつぶの

38  
みずが かわとかわをつなぎ うみとうみをめぐり

43

ちぎゅうを                      みたす

46

みずは いのち                      せかいをめぐる

53

みずは いのち                      せかいをつなぐ                      みずは い

58

のち                      ちぎゅうのたからもの                      みずは いのち

The image shows a musical score for the song "I Love Water". It consists of two systems of staves. The first system (measures 63-65) includes a vocal line with lyrics "I Love Wa - ter. I Love", a piano accompaniment, and a guitar line. The second system (measures 66-68) includes a vocal line with lyrics "Wa - - - ter.", a piano accompaniment, and a guitar line. The score is written in a standard musical notation with treble and bass clefs.

■注

- 1) 平成29年改訂学習指導要領音楽科に示されている。なお、イの「それらに関わる」の後には、第1・2学年のみ「身近な」と添えられている。
- 2) リズム、旋律、ハーモニーといったいわゆる音楽の諸要素は、現学習指導要領上では「音楽を形づくっている要素」と呼ばれており、山中は「音楽構成要素」（山中 2017）と呼んだ。また、これらは、「音楽的諸概念」（たとえば、（吉田 1982））と呼ばれる場合もある。いずれの用語も、それらをどのようにして学習させるかについては違いがあるものの、指しているものそのものは同じであるため、本稿では、引用の場合をのぞき、それらを「音楽の諸要素」と書き表す。
- 3) 『小学校音楽指導資料 指導計画の作成と学習指導』に「年間指導計画の例」として示されている「主題による題材」の題材名である（文部省 1980, 38-46）。
- 4) これらによって指定された「要注意歌謡曲」は取扱い内規に一覧で示されていたが、この指定制度は、1983（昭和58）年に廃止され、1987（昭和62）年には一覧表は消滅している。

取扱い内規自体は現在もあり、「日本民間放送連盟放送基準」の「(付) 放送音楽などの取扱い内規」において、放送基準各条のほか、放送に使用することの適否の判断に以下のものをあげている。

1. 人種・民族・国民・国家について、その誇りを傷つけるもの、国際親善関係に悪い影響を及ぼすおそれのあるものは使用しない。
2. 個人・団体の名誉を傷つけるものは使用しない。
3. 人種・性別・職業・境遇・信条などによって取り扱いを差別するものは使用しない。
4. 心身に障害のある人々の感情を傷つけるおそれのあるものは使用しない。また、身体的特徴を表現しているものについても十分注意する。
5. 違法・犯罪・暴力などの反社会的な言動を肯定的に取り扱うものは使用しない。特に、麻薬や覚醒剤の使用などの犯罪行為を、魅力的に取り扱うものは使用しない。
6. 性に関する表現で、直接、間接を問わず、視聴者に困惑・嫌悪の感じを抱かせるものは使用しない。
7. 表現が暗示的、あるいは曖昧であっても、その意図するところが民放連放送基準に触れるものは使用しない。

8. 放送音楽の使用にあたっては、児童・青少年の視聴に十分配慮する。特に暴力・性などに関する表現については、細心の注意が求められる。

(<https://www.j-ba.or.jp/category/broadcasting/jba101032#ongaku> 2019年11月1日アクセス)

- 5) 「金太の大冒険」は、つボイノリオが1975年に発表した童謡的春歌である。
- 6) 「リムジン江」は、朴世永作詞、高宗漢作曲で、1957年に朝鮮民主主義人民共和国で発表されている。日本での発売等についてはさまざまないきさつがあるが、1968年には、李錦玉による訳詩が出ており、授業プランは、1968年の訳詩にもとづいて行われている。
- 7) 「音日記」は、R. マリー・シェーファー他(1992)において、100の課題のうち、15番目にあげられているものを参考にしている。
- 8) 2011年12月9日に、いの町立川内小学校第4学年15名に対して行った。
- 9) 2015年11月7日に椋山女学園大学で行われた、第9回東海ブロック国際理解教育研究大会(愛知大会)である。国際シンポジウムが「世界の子どもたちが大陸を越えて学び合う“水と生活”」というテーマで開かれ、オープニングセレモニーで歌が披露されている。
- 10) 実際の子どもたちの感想等については、宇土・林(2016)を参照されたい。
- 11) 2019年3月30日にパリ日本文化会館で行われた。3国の子どもたちによる音楽や影絵によるパフォーマンスの後、子どもたちによるパリ宣言が行われ、フィナーレとして新たに作曲されたWE LOVE THE EARTHが歌われた。
- 12) これについては別稿で述べる。

#### ■引用・参考文献

- 宇土泰寛・林敏博(2016)地域の水の学習から大陸を越えた水の合唱へ—ブルキナファソとフランスの大陸間教育交流の一環として—。椋山女学園大学教育学部紀要9, 99-108
- 宇土泰寛(2020)回想：エピソードが語る実践研究の回想—「宇宙船地球号との出会いと教育実践研究—」。椋山椋山女学園大学教育学部紀要13, 37-57
- 千成俊夫編(1982)達成目標を明確にした音楽科授業改造入門, 明治図書
- 文部省(1980)小学校音楽指導資料 指導計画の作成と学習指導, 教育芸術社
- 八木正一(1999)教科教育の課題 学びの再構築, 埼玉大学教育実践研究指導センター紀要12, 51-59
- 八木正一・山中文・三国和子(1986)授業プラン「要注意歌謡曲」とその展開—合科・総合学習への一視点—, 埼玉大学紀要(教育学部)教育科学35(1), 63-71
- 山中文・菊地るみ子・岡谷英明・柴英里・大石美和(2013)「音日記」の教材性と合科的授業の有効性：「音日記」と三つの合科的授業を組み合わせて, 教材学研究24, 日本教材学会, 33-41
- 山中文・岡谷英明・大石美和(2013)音・食・環境による合科的授業開発 その1 音を中心とした授業の開発と実践, 高知大学教育学部研究報告73, 51-58
- 山中文(2017)音楽科における教育内容論の成立と展開に関する研究—授業方法との関連を視野に入れて—, 風間書房
- 山中文(2019)学習指導要領にみる〔共通事項〕の課題—小学校音楽科を中心に—, 椋山女学園大学研究論集50(社会科学編), 51-65
- 吉田孝(1982)音学科における教育内容と教材の関係, 季刊音楽教育研究33, 83-91
- R. マリー・シェーファー・鳥越けいこ・若尾裕・今田匡彦(1992)サウンド・エデュケーション, 春秋社